

▶ 木材産業・木材利用（実践・輸出戦略）研修

令和6年度実施予定

- 目的：木材産業の振興と木材利用の拡大を図るため、木材の加工・流通、木造公共建築物、木材輸出等の最新動向や知見、知識を習得させる。
- 対象者：地方公共団体職員
森林管理局・署等職員等
- 計画人数：30名
- 期間：令和7年1月20日(月)～24日(金)＜5日間＞
- 研修のポイント

木材産業・木材利用分野に関する課題解決に向けたヒントを見付けていただけるよう、関係する法令やJAS規格の解説、国産材のみを原料とする合板工場や木材利用促進に向けた最新技術の見学等を組み込んだカリキュラムとしています。



国産材がうず高く積まれたキーテック山梨工場のストックヤード

令和5年度実施状況

- 主な講師
 - ・ノースジャパン素材流通協同組合 鈴木信哉氏
「採材方法と丸太の流通について」
 - ・日本木材輸出振興協会 山田壽夫氏
「国産材の輸出の現状と課題」
 - ・木材のサプライチェーンマネジメントに取り組む企業



鈴木信哉 講師



山田壽夫 講師

- 見学先
 - ・株式会社キーテック 山梨工場（合板製造）
 - ・森林総合研究所（マイクロフィンガージョイントや木のお酒等、木材利用促進のための最新技術）
- 研修生の声
 - ・「川上から川下までの情報伝達が重要であることを理解できた」
 - ・「輸出について知る機会がなかったので、大変勉強になった」

▶ 地域林政アドバイザー研修

令和6年度実施予定

- 研修形式：オンライン
- 目的

地域林政アドバイザー（※）に求められる、市町村に係る最新事情を含む森林・林業施策全般に関する知識及び技術を習得させる。これにより、施策の企画立案や関係者への指導・助言ができる者を育成する。

※地域林政アドバイザー

地方公共団体の委嘱、若しくは地方公共団体からの業務の委託を受けて、地域林政支援活動（森林・林業行政に関する知識・経験を基に、市町村の林務担当者や地域の林業関係者への指導・助言を通じて市町村の森林・林業行政を支援する活動）を行う者。都道府県・市町村が地域林政アドバイザーを雇用（又は委託）した場合の経費は、特別交付税措置の対象となる。

- 対象者

地域における市町村林務行政のアドバイザーとなり得る方々
- 計画人数：54名
- 期間

令和7年2月4日(火)～7日(金)＜4日間＞
- 研修のポイント

林野庁講師陣による森林・林業施策全般の講義に加え、現職の地域林政アドバイザーから具体的な取組成果や苦労話など生の声を聴くことができます。
- 地域林政アドバイザー制度と本研修の関係

地域林政アドバイザー候補者の要件の一つとして、本研修の受講が該当（地域林政アドバイザー活用推進要綱の第2（1）②）

以前、勤務していた九州森林管理局宮崎森林管理署都城支署は、スギを中心とした素材生産量の多い地域にあります。木材生産の現場に上司とともに出向いた際には、林業事業者の方が高性能林業機械のアーム・ブームやアタッチメント等を手足のように操る姿を目の当たりにし、林野技官として操作技術を習得したいと思っていました。

今回、かねてより希望していた本研修を受講する機会をいただき、前期研修の講義（オンライン）を経て、8月下旬に当所林業機械化センターで実施された後期研修に全国から集まった研修生とともに臨んだので、そこで感じたことを述べることにします。

実習では3～4人ずつに班分けされます。実習林内で行ったスイングヤードによる集材、ハーベスタによる模擬立木の伐倒や造材、木材グラップル機及びフォワーダによる集積・運材などの各作業には、正確な操作が求められ、一時も油断できないことを実感しました。

また、これらの機械を初めて操作してみて、意のままに操るのはとても難しいことが分かり、九州で見たベテランオペレーターが繊細な動きで作業していたことを改めて思い知った次第です。



スイングヤードをリモート操作して集材作業

班内ではお互いに作業手順を確認したり、操作時に起こり得るリスクについてディスカッションしたりするなど、安全意識や指導のポイントを5日間に渡って学びました。さらに毎夕には受講したことの振り返りを、そして最終日にはリスクアセスメント演習を行いました。



つかんだ丸太をフォワーダの荷台に積み込み

前期研修修了時点では、機械操作上のリスクについてやや漠然としたものもありましたが、後期で実際に機械を操作し研修生同士で活発に議論することを通じて、これらを明確にイメージできるようになり、現地実習の重要性を認識しました。

私にとってこの5日間は、視野が広がり各研修生との交流を深められる大変有意義な日々でした。ここで学んだ多くの技術や知識を、今後の職務に活かしていきたいと思います。

講師の方々には、一つひとつの操作や手順を丁寧に指導していただきました。心より感謝を申し上げます（本誌1ページの記事にあるように、受講することで安全衛生教育修了証を取得することができました。）。

中川 隆之

FTIクイズ

Q1：林業機械化センターの親機館には、蒸気機関車「ボールドウィン号」が保存されています。

その特徴的なスタイルから「かぼちゃ煙突」という愛称を持っているこの機関車が、現役で活躍していたときの燃料は次のうちどれでしょう。

- ① 石炭
- ② 木炭
- ③ 木材



Q2：研修所が行う研修には集合、オンライン、通信の3タイプがあります。

集合研修は、本所（東京都八王子市）又は林業機械化センター（群馬県沼田市）において宿泊を伴い実施するもので、本所では2コースを同じ週に行うことができます。

令和6年度に本所及びセンターで行っている3タイプの研修の合計コース数は、次のうちどれでしょう。

- ① 55
- ② 75
- ③ 95

【答えはp.4にあります】



黒と鮮やかな黄色紋が特徴のヤマサナエは日本固有種



翅が赤褐色のミヤマカワトンボも日本固有種



クロウリハムシが多摩森林科学園の看板上で案内



面長でつぶらな瞳のシロコブゾウムシ



金属系緑色で頭部が大きいメのアサヒナカワトンボ



ホソミイトトンボは和名のとおりとてもスリム



ホタルと近縁ながらも発光はしないベニボタル



アブラムシがカタツムリに乗って楽ちん移動中



翅に褐色の帯があり縁紋が桃色のミヤマアカネ



複眼と縁紋が黒いオオシオカラトンボ



自ら跳んできて指に噛みつくツチイナゴの幼虫



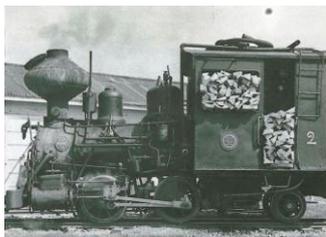
正面玄関前に立つムネアカハラビロカマキリは外来種

???????? FTIクイズ・答えとプチ解説 !!!!!!!!!!!!!

A 1 : 答えは③の「木材 (薪)」です。

米国のポールドウィン社で設計された時点では石炭を用いることとしていたようですが、日本では薪が使われました。

大正10 (1921) 年から約40年に渡って北海道森林管理局管内の木材搬出に活躍した実機で、森林鉄道の廃止後、昭和44 (1969) 年から保存しています。



大きく膨らんだ煙突の中身は、森の中を走る際に安全を確保するための「火の粉止め」です。

薪を積んだ機関車 (展示物と同型機)
出典：北海道森林管理局Webサイト

A 2 : 答えは②の「75コース」です。

オンライン研修は16コースで、ハイブリッド型 (座学 (講義) をオンライン、実習等を集合形式で実施) もあります < 例：林道技術者育成、高性能林業機械 (安全指導)、公共建築物等木材利用促進など >。

なお、通信研修には「治山・林道」と「国有林野管理等」の2コースがあり、毎年6月初旬から2月末日まで実施しています。

詳しくは、本誌の4月号 (毎年度) や当所Webサイトの「研修の紹介」に掲載している「研修年間計画表」をご覧ください。

[研修の紹介：林野庁 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)



FTI News | No. 104

林野庁 森林技術総合研究所
〒193-8570 東京都八王子市甘里町(とどりまち)1833-94
TEL | 042-661-7121(総務課) / -3560(教務指導官室)
-3565(技術研修課) / -3567(経営研修課)
URL | https://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyuuu_zyo.html

林業機械化センター
〒378-0312 群馬県沼田市利根町根利1445
TEL | 0278-54-8332
URL | https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikai/kikai_ka_senta.html

